

天理市埋蔵文化財センターだより

Vol.3

特集 『発掘の現場から - 地下に眠る天理の昔々 - 』

平成17年度発掘調査速報展

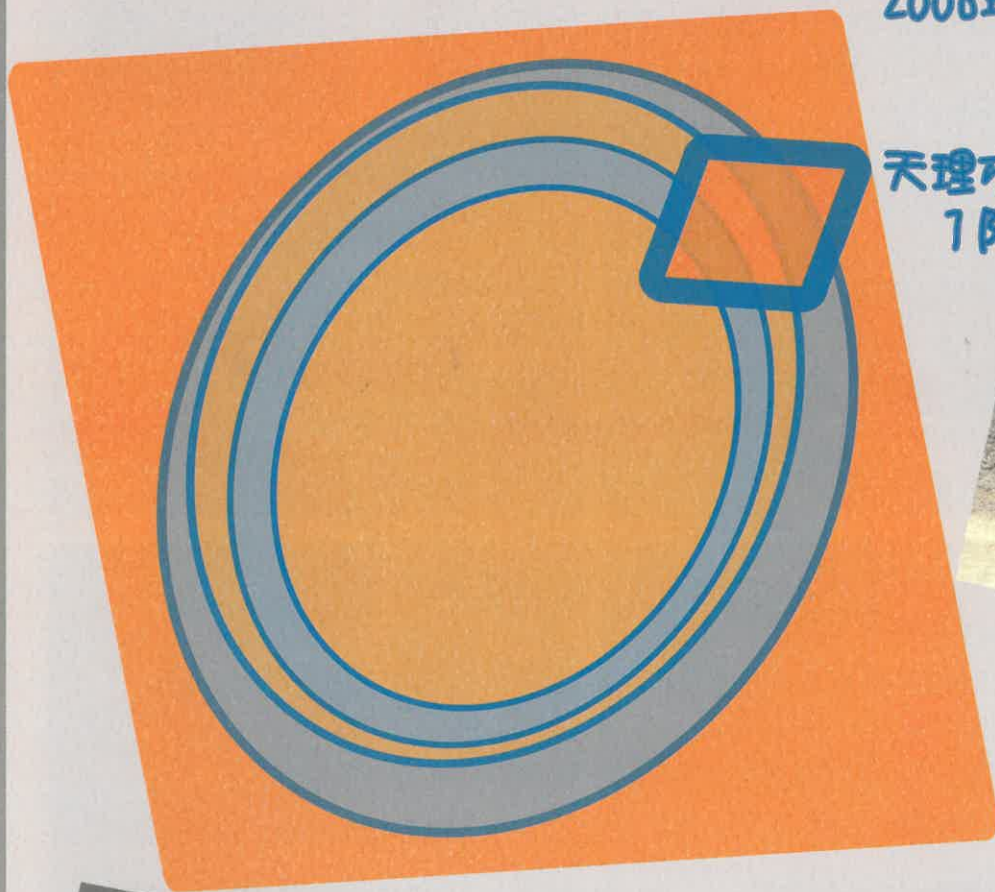
2006年12月6日(水)

~21日(木)

※月曜日は休館日

天理市文化センター

1階展示ホールにて



冬の文化財展
(前年度の発掘調査から)
もはじめました



天理市教育委員会 文化財課

発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-

平成17年度発掘調査速報展

期間 平成18年12月6日(水)～21日(木)
会場 天理市文化センター1階展示ホール

平等坊・岩室 遺跡 第25-2次

びょうどうぼう・いわむろ
いせき
だい25-2じ



期間 平成17年4月11日～
平成17年5月27日



土器出土の瞬間

遺跡の東端を発掘しました。弥生時代前期の川や、弥生時代中期から後期の濠、井戸などが見つかっています。濠の中からは、珍しいお祭り用の道具（銅鐸形土製品）が出てきています。

この調査で見つかった井戸は、底を打ち欠いた甕形土器を二つ合わせ口に重ねて井戸枠にしたもので、めずらしい構造です。またこの井戸は前期の川の跡に掘り込んでおり、よく水が湧く場所を狙って井戸を掘ったことがわかります。



土器を用いた井戸枠



銅鐸形土製品

銅鐸形土製品は、当時非常に貴重な祭器であった銅鐸を粘土でかたどったもので、やはり祭りに用いられたと考えられます。銅鐸は集落全体の祭りに使う祭器だと考えられていますが、銅鐸形土製品はどんな祭りに使ったのでしょうか？詳しいことはわかっていません。

平等坊・岩室 遺跡 第26次

びょうどうぼう・いわむろ
いせき
だい26じ



期間 平成17年10月3日～
平成17年11月29日

遺跡の北東部分を発掘しました。弥生時代前期から後期にかけての川や溝、土坑（何らかの目的で掘った穴）が見つかりました。なかには平等坊・岩室のムラが周囲に濠をめぐらせる以前の川もあり、弥生時代のごく初めごろの土器が出てきています。



溝の中は土器だらけ



柱穴から出土した土器



まとめられた石包丁

弥生時代前期にはこのあたりはムラの東端だったようで、集落の縁になる濠と川が見つかっています。その後、中期から後期にかけてムラがだんだん広がっていくようですが、濠の移り変わりから確認できました。後期になると、今のマンションのすぐ南側あたりに安定した地盤ができて、多くの建物が建って土地を区画する溝が掘られ、ムラの中心部になっていくようです。

柱の跡に土器を納めたり、石庖丁をまとめて小穴に納めたりした珍しい遺構も見つかっています。

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回の「センターだより」誌面では、平成17年度におこなった発掘調査の成果をご紹介します。発掘調査速報展示とあわせてご覧ください。

平等坊・岩室遺跡 第27次

びょうどうぼう・いわむろ
いせき
だい27じ



期間 平成17年11月28日～
平成18年1月30日

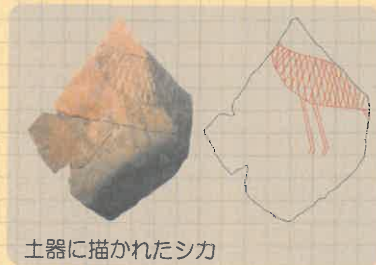
遺跡のほぼ真ん中を発掘しました。弥生時代前期の濠（ほり）のほか、弥生時代中期から古墳時代にかけての井戸や溝など生活の跡が見つっています。また、イノシシの牙で作ったアクセサリー（牙玉）や、表面に絵を描いた土器（絵画土器）など、めずらしい品物も出土しました。



調査区全景



土器出土状況



土器に描かれたシカ

弥生時代前期の遺構は濠よりも西側に多く、この濠が当時のムラの東端だったことがわかります。弥生時代中期になるとこの濠は埋まり、ムラも東へと広がっていきます。

絵画土器と牙玉は弥生時代中期のもので、どちらもお祭りに使ったと思われます。絵にはシカや船のほかに渦巻を描いたものもあり、もしかすると唐古・鍵遺跡のような建物の絵の一部かもしれません。牙玉からは縄文時代以来の伝統も見取れます。

成願寺遺跡

じょうがんじいせき



期間 平成18年2月6日～
平成18年2月27日



「寒～い」



古墳時代の大溝

このあたりは昔から谷状の地形になっていたようで、一番古いところでは縄文時代の終わり頃に流れていた川が見つっています。その後、この川が埋まってしまってから、古墳時代の初め頃に東西方向の大溝が掘られます。この大溝の時期が、すぐ西側の馬口山古墳が造られた時期に近いことが注目されます。あるいは、この近くにその時代の集落があって、集落のすぐそばに馬口山古墳がそびえているといったような景観があったのかもしれませんが。

馬口山古墳のすぐ東側で発掘調査を行いました。古墳時代の初め頃に掘られた、東西方向に走る大溝が見つっています。



大溝の掘削風景



ラジコンヘリで写真撮影

出動！発掘現場レポート！！

平成18年度上半期の調査

天理市教育委員会文化財課は、平成18年度上半期に開発に伴う発掘調査を4件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■平等坊・岩室遺跡第28次

今回の誌面特集でも触れた平等坊・岩室遺跡の調査です。宅地開発に伴い遺跡北辺の調査を実施しました。弥生時代から中世にかけて流れていた東西方向の川が見つかり、堰や護岸の機能を果たした杭列が残っていました。このほか、弥生時代から古墳時代にかけて掘られた溝などが見つっています。また、付近に古墳時代後期の古墳が存在したことを物語る円筒埴輪も出土しています。

■成願寺遺跡・ホックリ塚古墳

市道建設に伴い、ホックリ塚古墳のすぐ脇を発掘しました。当初期待された古墳のすそは見つかりませんでした。古墳が造られる前の弥生時代中期末から後期にかけての溝など、ムラのくらしの跡が出土しました。

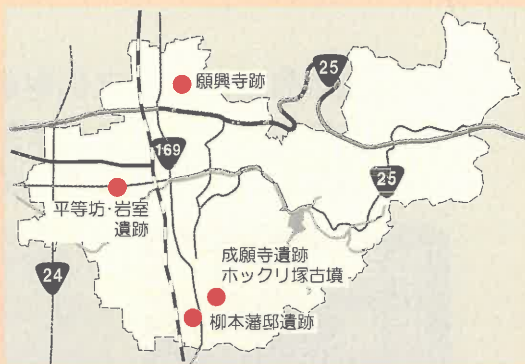
■願興寺跡

J Aライスセンター建設に伴い、願興寺の寺域の南端を発掘しました。南東から北西に向かう溝と、それに向きを合わせた掘立柱建物一棟が見つっています。お寺に伴う奈良時代の建物と考えられます。

■柳本藩邸遺跡第11次

柳本町内で個人住宅建設に先立ち調査をおこないました。江戸時代後半ごろの石垣が見つかり、上街道沿いの町並みの一端が明らかになりました。また、黒塚古墳北側の埋没谷の存在も追認することができました。

平成18年度の調査成果は
来年冬の文化財展で
展示するよ！



■各遺跡の位置



■平等坊・岩室遺跡28次
出土した弥生時代の土器



■願興寺跡
掘立柱建物跡



■柳本藩邸遺跡11次
見つかった江戸時代の石垣

発行◆天理市教育委員会 文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市市部町320
Tel・Fax 0743-65-5720
印刷◆天啓 天理市森本町810